



「特急サンダーバードと変わる福井駅」



特急サンダーバード 画像提供 PIXTA



木材がふんだんに使用された、えちぜん鉄道福井駅

フクイサウルスにフクイラプトル。さらにホームのベンチにも恐竜。

まさにジュラシックパークのような福井駅は、今、北陸新幹線工事の真っ只中です。

そのお隣には、えちぜん鉄道の福井駅。かつては控えめな地上駅でしたが美しい高架駅に生まれ変わりました。

駅舎に入れば待合室にはグランドピアノの音色が響き渡り、ホーム階へ上がれば駅名標から番線の標示まで木材がふんだんに使用されていて、至るところにぬくもりを感じます。

そして車止めの先、ひょっとすると線路が伸びてそのまま新幹線ホームへ…なんて想像も。利便性の追求だけでなく、ゆとりのあるデザインは気持ちがホッとします。

えちぜん鉄道といえばアテンダントさん。以前私が乗っていた時、おばあちゃんの重たそうな荷物を持ってあげて乗り降りをサポートされていました。その時ちらっと聞こえた方言が何とも温かく気分がほっこり。大事な思い出です。

旅の終わりにはお気に入りの羽二重餅を買って、特急サンダーバードへ。

変わる福井駅。ぬくもりはやがて熱を帯び、太陽のように旅人を包み込んでくれることでしょう。



えちぜん鉄道の福井駅。ガラス張りですら外からも2階のホームと電車が見える



福井駅ホームでのえちぜん鉄道6000形



福井駅 (撮影:令和3年11月)

編集後記

▼新年明けましておめでとうございます。本年も読者の皆様にとって、明るい1年になりますように、心よりお祈り申し上げます。

▼「鉄道・運輸機構だより」2022年新春号をお届けします。巻頭言では、平野理事長代理より「未来を拓く」として令和4年の年頭のご挨拶をいたしました。当機構が挑戦していく「未来」と「鉄道開業150周年」とを重ね合せて、大きな節目になる1年にしたいという思いが込められております。

▼本号の特集、平成9年開業の「北陸新幹線(高崎・長野間)のその後」では、沿線地域の紹介とコロナ禍の影響で浸透したテレワークなどの新しい生活スタイルが生まれ、より一層の新幹線通勤の定着が進んだことに触れており、高速鉄道がもたらす平日の通勤時間や休日の余暇時間の過ごし方がこれまで以上に見直されていることに気付かされました。▼クローズアップでは、夏季号でも取り上げました「機構改革プラン」について、新たな取り組み事例をご紹介いたしました。

▼ワーキングレポートでは、相鉄・東急直通線における地下駅の建設を担当する新横浜鉄道建築建設所をご紹介します。来年度下期に開業予定の同線は、まさに建設工事の大詰めでもあり、駅部の内装工事だけでなく、軌道工事も並行して進めるなど、今しか見ることができない工事現場の様子をご紹介します。昨年12月末にYouTube動画「相鉄・東急直通線現場レポート」でも取り上げておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

▼また、今回の記事にはありませんが、本年秋頃には西九州新幹線(武雄温泉・長崎間)の開業が予定されております。先般、JR九州の報道公開で新型車両「かもめ」がお披露目されたことも記憶に新しく、近日中に佐賀・長崎県を運転する車両が走りだす姿を想像すると、ワクワク感が止まらなくなりました。

▼今回の記事はいかがでしたでしょうか。当機構を取り巻く環境、時節に合った話題をたくさんご紹介できるように、広報課としても、絶えず工夫してまいります。記事に対する忌憚ないご意見をいただければ幸いです。宛先は当機構HP(広報課メール窓口)に投稿をお願いします。(広報課長